

子ども家庭支援センター 運営協議会 ～R7 事業報告～

【目次】

- 1 広場事業（東部・西部）・・・・・・・・・・・・・・・・ P1
- 2 巡回子育て発達相談事業（東部）・・・・・・・・ P3
- 3 児童発達支援センター事業・・・・・・・・・・・・ P9
- 4 子ども虐待防止ネットワーク事業・・・・・・・・ P15
- 5 ショートステイ事業・・・・・・・・・・・・・・・・ P23
- 6 バースデーサポート事業・・・・・・・・・・・・ P26

1. 広場事業（東部子ども家庭支援センター・西部子ども家庭支援センター）

令和7年12月末現在

東部子ども家庭支援センターでは専門相談員講座が好評です。講師は社会福祉士、臨床心理士などで、内容は「母親が働くということ」「やさしい心理学」「小学校入学に向けて」など。どの講座も受け付け開始後数日で満席になることから、子育て世帯にとって関心の高い内容を提供できていると実感しています。



西部子ども家庭支援センターでは、児童発達支援センターの栄養士による「離乳食講習会」を開催しています。

これから離乳食が始められる方、または始めたばかりの方を対象に、基礎的な離乳食のすすめ方を紹介します。

少人数での開催なので、相談をしやすいと好評です。35名参加



東部子ども家庭支援センター



西部子ども家庭支援センター

(1) 妊娠時からの事業展開

ウェルカム赤ちゃん

妊婦さんとそのご家族を対象にしたプログラムです。先輩ママから赤ちゃんとの生活の話の聞いたり、センター職員が出産後の育児サービスの説明をします。ご夫婦の参加も多くなりました。

《99名参加》



ママズカフェ

生後1～3か月までのお子さんをお持ちのお母さんが対象です。出産後のあれこれ、ゆっくりとお茶を飲みながら語り合い、情報交換をしたり、仲間づくりの場を提供しています。

《208名の親子が参加》

パパの応援講座

子どもと共に過ごす楽しさや醍醐味、そして少しの戸惑いなどを、お父さん同士で共有しながら、仲間づくりや情報交換の場を提供しています。

《101名の親子が参加》

子どもの成長を学び一緒に遊びましょう

パパと家族みんなで絵本&ライブ

パパと一緒にベビーマッサージ

講座の後は、パパ同士のトークタイム

(2) 区民ひろばでの相談事業

地域区民ひろば課の協力を得て、平成27年10月より始まり10年目を迎え、区民ひろばを利用する方にも浸透してきました。

東部は育児相談、西部は発達相談の特性を生かし、ことばとからだの相談をお受けしています。

区民ひろば職員との連携により、細やかな相談対応でき、必要に応じた支援を提供しています。

おでかけ相談 (東部)



センターまでは遠くて行けないという方の相談を、身近な区民ひろば(18か所)でお受けしています。

《64件の相談》

あそんで相談 ことばとからだ(西部)



西部センターでの発達相談パオパオの出張版です。区民ひろば(17か所)での相談から、センターの発達相談につながった方もいます。

《74件の相談》

(3) 親の子育て力向上講座

ノーバディーズ・パーフェクト

〈完璧な親なんていない〉がテーマの全6回のプログラム。参加者が話したいテーマを決め、参加者同士で話を深め、その中で多様な価値観を知り、自分らしい子育てを見つけることを目的としています。

講座修了後には、プログラムの振り返りとして、フォロー講座を実施しています。《167名の親子が参加》

親子の絆づくりプログラム 赤ちゃんがきた!

生後2~5か月児を対象にした親子の愛着形成、子育て仲間との出会い、育児スキルの獲得で子育てに自信をもてるようになることを目的としたプログラムです。サポート等地域資源の獲得も目指しています。

《336名の親子が参加》

ポジティブ・ディシプリン®

〈叩かない・怒鳴らない子育て〉を目的とした全9回のプログラムです。今年度4年ぶりに実施しています。18歳までのお子さんを養育されている保護者を対象にしているため幅広い年代の子育て中の方が参加されています。

《令和8年1月~3月実施中》

＜地域組織化活動の推進＞

親同士が情報交換し支え合い、仲間づくりができるように、自主グループ活動やボランティア活動を支援し、地域に“共に支え合う”環境づくりを推進する。

- ・自主グループ 1
- ・ボランティア 5

*令和7年度

- ・新自主グループ 2
- ・新ボランティア 2

(4) 親子遊び広場利用者の推移

令和6年度(12月末)

総利用者数	17,625人
相談件数	6,739件

令和7年度(12月末)

総利用者数	17,438人
相談件数	8,228件

母子モアプリでの講座予約が定着した。ランチルームを利用し長時間滞在する利用方法がコロナ禍前の状況に少し戻ってきた様子をを感じる。相談件数の増加理由は、応援パートナー事業によるものが多い。

(5) 一時保育利用者の推移

令和6年度(12月末)

総保育児数	3,019人
総保育時間数	16,806時間

令和7年度(12月末)

総利用児数	3,040人
総保育時間数	16,300時間

オンライン予約の導入で念のための予約とキャンセルが増加している。キャンセル直後に予約が入ることも多くシステムが有効活用されていると感じる。

(6) 子育て訪問相談事業

令和6年度(12月末)

対応件数	2,707件
------	--------

令和7年度(12月末)

対応件数	3,798件
------	--------

応援パートナー事業で母子保健部門と連携し見守りを行うケースが増加した。児童福祉部門によるケンプ面接の実施も開始された。バーズデー訪問も84%実施で今年度も好評である。

一時保育登録とセンター個人利用申請書にロゴフォームを導入した。来館し利用者のスマートフォンでQRコードを読み取り登録している。これによりペーパーレス化が推進された。また、一時保育事業ではデータで利用者登録情報を共有できるため、これまで交換便を使用していた西部子ども家庭支援センターへの申請書送付作業の効率化が大幅に図られた。今後統計作業での活用もすすめていく。また、育児支援ヘルパー事業、ショートステイ事業での利用も開始予定である。

2. 巡回子育て発達相談事業（東部子ども家庭支援センター）

障害児、発達が気になる子どもがいる保育園や私立幼稚園、学童クラブを巡回し、児童の行動観察を行い、保育者や保護者に対し行動観察によるフィードバック、相談指導を行い、子どもの発達を支援する。また障害児保育、要支援児童の対応等の経験の少ない新設保育園、保育所に助言、指導を行っている。

<実施施設> 103施設

施設	園数	施設	園数
区立保育園	16	私立幼稚園	3
私立保育園	63	子どもスキップ	8
小規模保育所	6	千早臨時保育所	0
認証保育所	3	企業主導型保育所	4

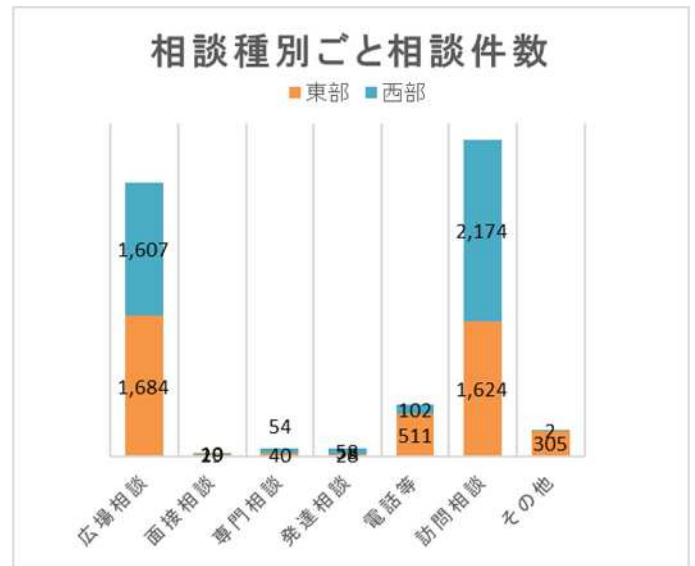
<相談対象児数> 700人

□統計データ

(1) 相談事業

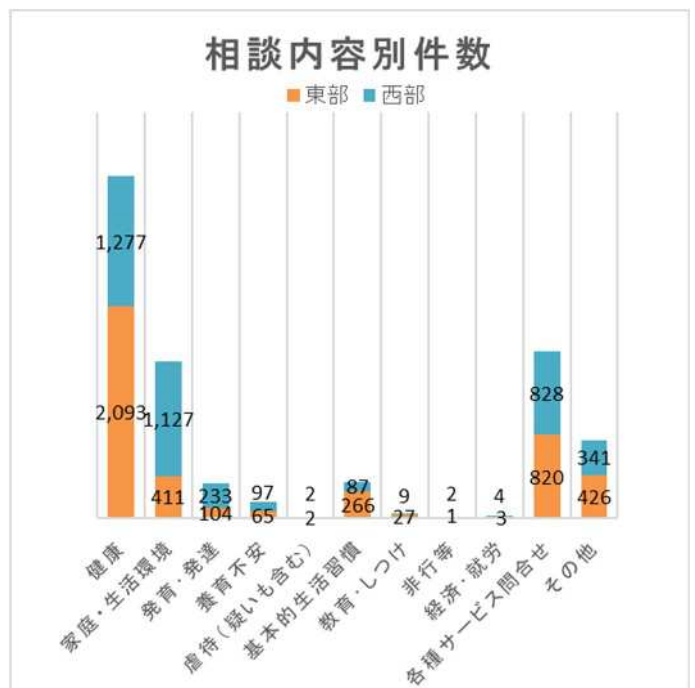
<相談内容>

区 分	東 部	西 部	計
広場相談	1,684	1,607	3,291
面接相談	29	10	39
電話等	511	102	613
専門相談	40	54	94
発達相談	28	58	86
訪問相談	1,624	2,174	3,798
その他	305	2	307
合 計	4,221	4,007	8,228



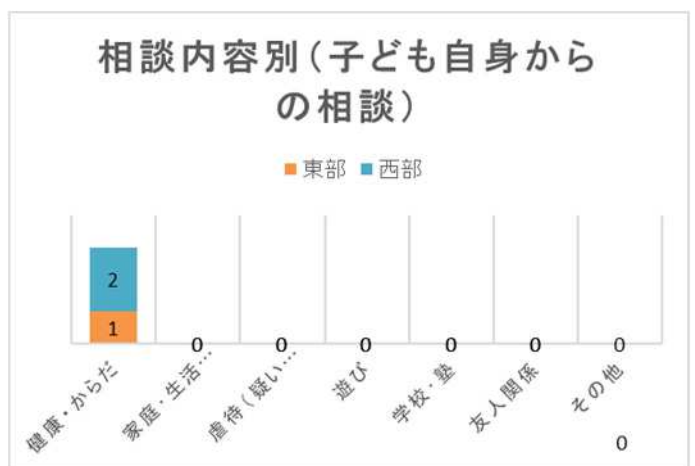
<相談内容>

区 分	東 部	西 部	計
健康	2,093	1,277	3,370
家庭・生活環境	411	1,127	1,538
発育・発達	104	233	337
養育不安	65	97	162
虐待（疑いも含む）	2	2	4
基本的な生活習慣	266	87	353
教育・しつけ	27	9	36
非行等	2	1	3
経済・就労	4	3	7
各種サービス問合せ	820	828	1,648
その他	426	341	767
合 計	4,220	4,005	8,225



<相談内容>（子ども自身からの相談）

区 分	東 部	西 部	計
健康・からだ	1	2	3
家庭・生活環境	0	0	0
虐待（疑いも含む）	0	0	0
遊び	0	0	0
学校・塾	0	0	0
友人関係	0	0	0
その他	0	0	0
合 計	1	2	3



(2) 広場事業

区 分		東 部	西 部	計
新規登録 児童数		496	498	994
総利用者数		11,395	6,043	17,438
内訳	子ども	5,690	3,106	8,796
	大人	5,705	2,937	8,642

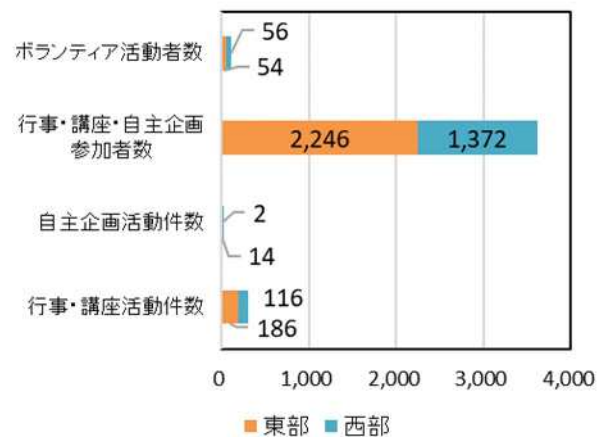


(3) 地域組織化活動

区 分	東 部	西 部	計
行事・講座活動件数	186	116	302
自主企画活動件数	14	2	16
合 計	200	118	318

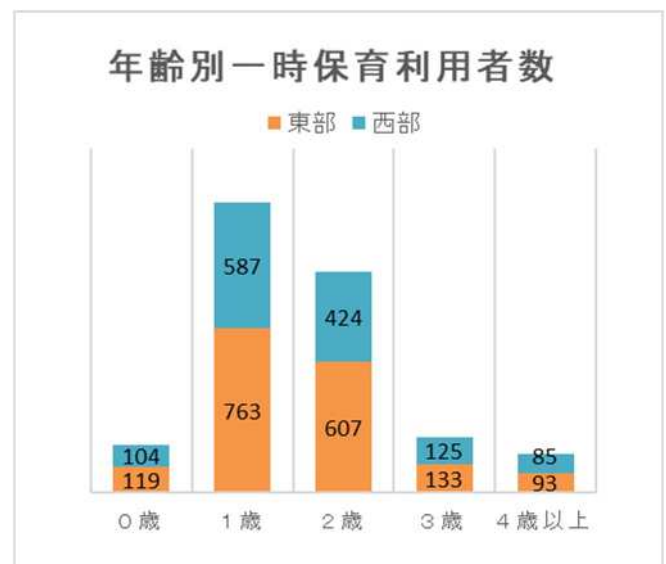
行事・講座・自主企画 参加者数	2,246	1,372	3,618
ボランティア活動者数	54	56	110
合 計	2,300	1,428	3,728

地域組織化活動



(4) 一時保育

区 分		東 部	西 部	計
総保育児数		1,715	1,325	3,040
利用児童数 年齢別	0歳	119	104	223
	1歳	763	587	1,350
	2歳	607	424	1,031
	3歳	133	125	258
	4歳以上	93	85	178
総保育時間数		9,543	6,757	16,300



(5) としまいっしょに子育て

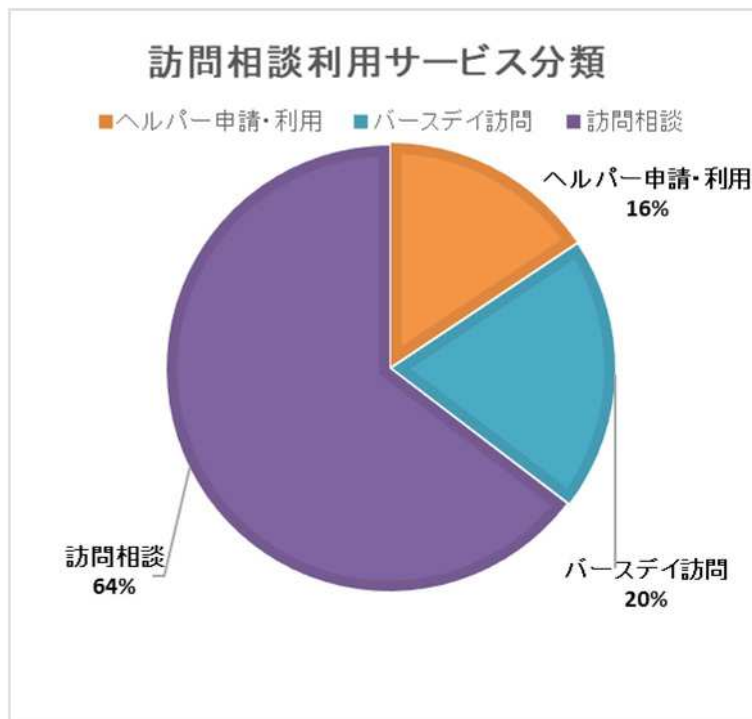
○子育て訪問相談事業

◇ 相談対応件数

東 部	1,624 件
西 部	2,174 件
合 計	3,798 件

◇ 相談対応件数内訳

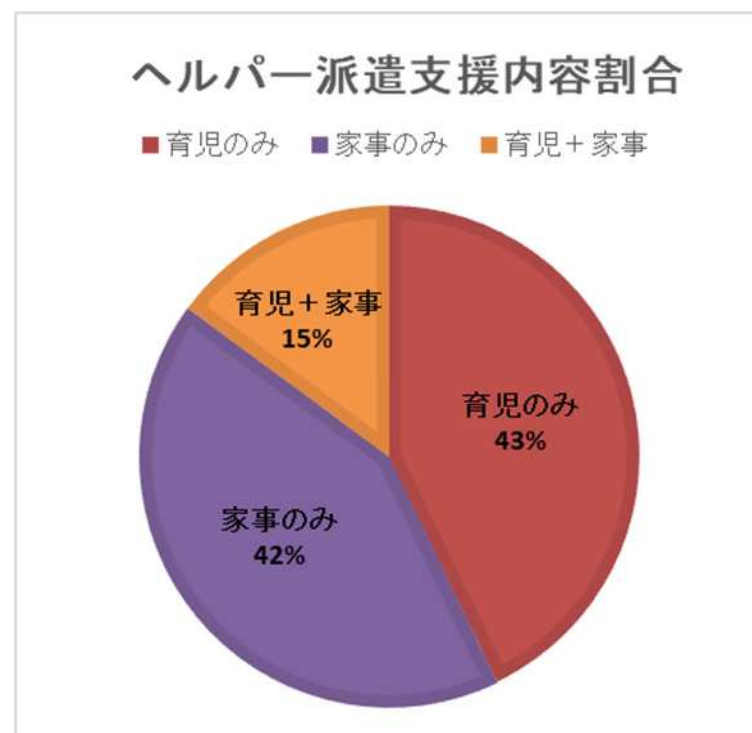
	東部	西部
ヘルパー 申請・利用	322	271
バースデイ訪問	418	333
訪問相談	884	1,570
合計	1,624	2,174



○育児支援ヘルパー事業

◇ ヘルパー派遣回数 (単位: 回)

ヘルパー派遣内容	派遣回数
育児のみ	1,438
家事のみ	1,417
育児+家事	500
合 計	3,355



◇ヘルパー派遣時間

9,878 時間

(6) 巡回子育て発達相談

巡回施設のべ訪問件数	354 園
対象児のべ相談件数	1,799 名

(7) 5年間の推移（相談事業、広場事業、地域組織化活動、一時保育、訪問事業、心理巡回事業）

※各年度は 12 月末時点

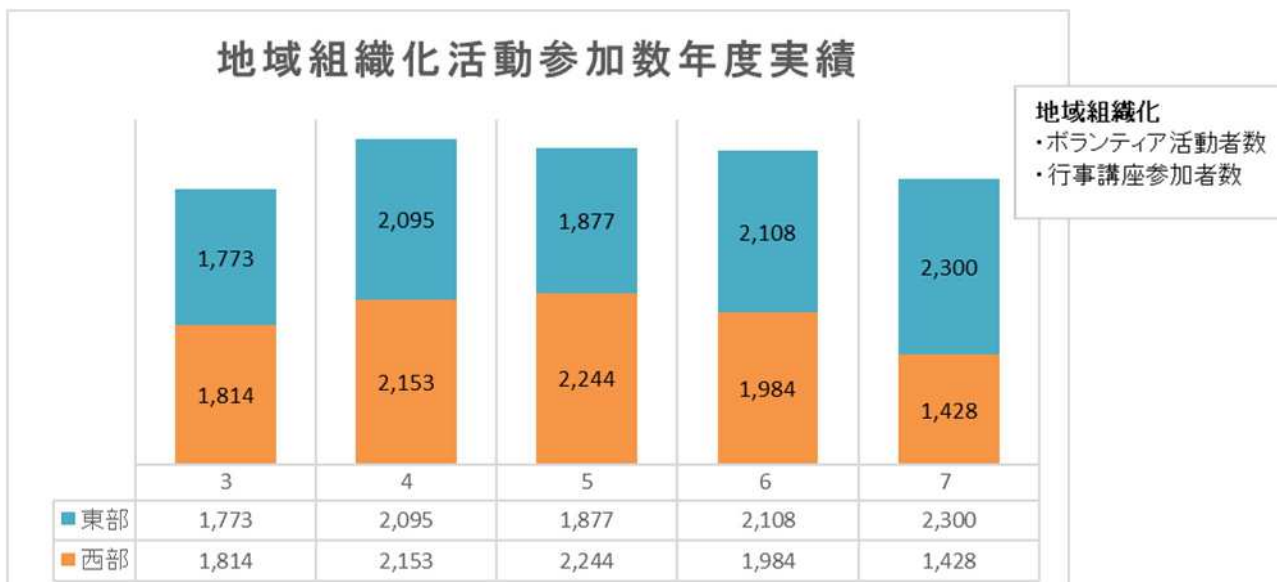
①相談事業年度実績グラフ



②親子遊び広場総利用者数年度実績グラフ



③地域組織化活動参加者数年度実績グラフ



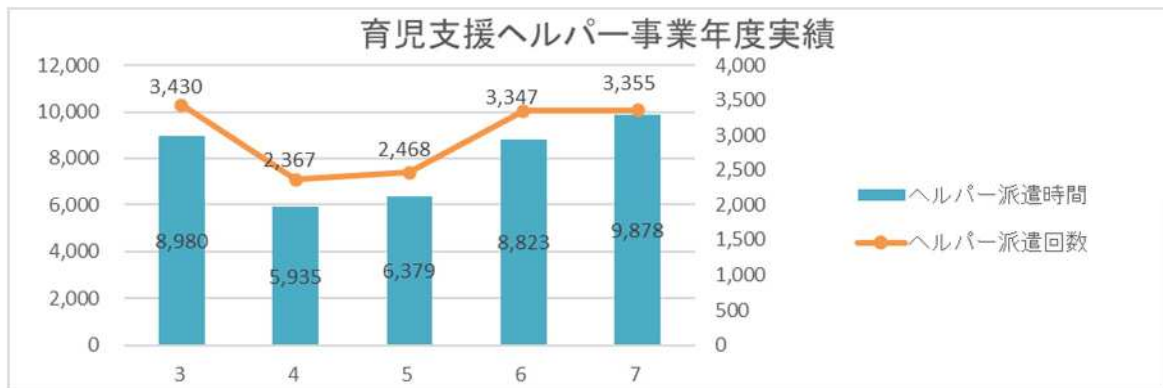
④一時保育年度実績グラフ



⑤訪問事業

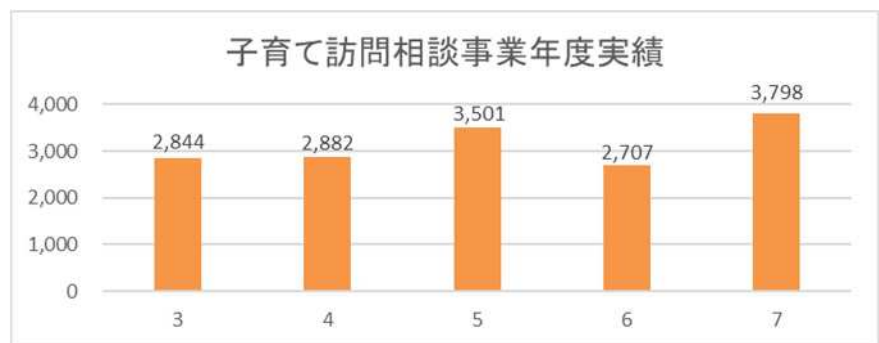
a. 育児支援ヘルパー事業 ※令和7年12月31日現在

◇ヘルパー派遣件数



b. 子育て訪問相談事業

◇訪問相談件数



⑥巡回子育て発達相談事業



3. 児童発達支援センター

地域の障害児の健全な発達において中核的な役割を担う機関として、来所する児童に専門的な知識及び技術を必要とする児童発達支援を提供し、あわせて障害児の家族、指定障害児通所支援事業者その他の関係者に対し、相談、専門的な助言その他の必要な援助を行うことを目的としています。



通所バス

(1) 年間行事

馬と触れ合う会

5月19日(月) 31名、12月8日(月) 31名参加

学習院大学馬術部の協力により例年実施しております。

学生の皆さまのサポートにより、心身の発達に課題があるお子さんも馬との触れ合いを楽しむことができ、貴重な経験を得られています。



家族交流会

11月8日(土) 25名参加

日頃、療育に付き添っておられないお父さんにも参加いただき、センターの事業やセンターでのお子さんについて、知ってもらえる日であり、ご家族同士の交流の場にもなっています。

縁日ごっこ

7月30日(水) 85名参加



平日に実施でしたが、父親も多く参加していただきました。慣れている場所でのお祭りで、通所している子どもたちも動揺なく楽しめる機会となっています。卒所後の小学生も参加できます。



家族野外交流会(いもほり)

10月19日(日) 86名参加

光が丘公園近くの農園でお芋ほりをしました。この日はお父さんも大活躍。砂に触れることができなかつたお子さんが、いつの間にか泥んこになつたりしています。普段できない経験をすることができました。袋いっぱいのお芋を嬉しそうに持ち帰っていました。



園外保育

2グループ合同で実施

今年度は通所グループの人数が少ないため、2グループで通所バスを利用し、園外保育に出かけました。

「サンシャイン水族館」で海の生き物を見学しました。



親子クッキング

12月14日(日) 33名参加

武蔵野調理師専門学校主催の親子で楽しく調理を楽しむ行事です。クリスマスのスイーツを作った後、プロが作ったおいしいお料理もいただきます。レストラン等の利用しにくさを抱えるご家族も安心して参加いただいています。



おたのしみ会

12月16日(火) 17名参加



通所グループの子ども達が日ごろの療育の活動をお父さんお母さんに見てもらったり、音楽ボランティアの演奏を楽しんだりしました。サンタさんがプレゼントも持ってきてくれました。

お祝い会

3月10日(火) 予定

通所グループを卒業し、学校へ入学するお子さんの門出を祝う会です。

(2) 関係機関向け発達講座 (Zoomで実施)

日 程	テーマ及び講師	参加者数
第1回 9月19日(金)	第1回発達支援講座 「運動発達の気になる子どもへの支援 ～運動機能の発達と今後の生活を見据えて～」 講師：理学療法士 高木 健志 氏	28名
第2回 1月21日(水)	第2回発達支援講座 「ことばの発達と心の育ち ～外国籍の子どもへの実際の支援～」 講師：言語聴覚士 小池 真琴 氏	18名

子どものかんしゃく、口答えなど子育てに困難を抱えている保護者が肯定的なコミュニケーションを通して良好な親子関係と共に、子どもの自己肯定感を生み出すことを目的にした、全8回のプログラムです。具体的なスキルを学び、日常生活の中で試行錯誤したものを毎回フィードバックしながら進めていきます。

(3) ペアレントメンター事業

発達障害児を育てた経験のある親が、自らの経験を踏まえ発達が気になる子どもの子育てを応援する事業。子どもの困難に気づいても専門機関への相談はハードルが高い場合もあり、当事者目線のメンターが話を聞くことで安心感につなげ福祉サービスや学校などの情報も伝える。東京都ペアレントメンター事業の養成研修を受け、東京都ペアレントメンター事務局に登録している。豊島区では4人のメンターが登録している。



日時	対象年齢	メンター	参加人数	日時	対象年齢	メンター	参加人数
6/3 (火)	未就学児	2人	3人	12/2 (火)	未就学児	2人	3人
6/19 (木)	未就学児	2人	2人	3/3 (火)	年長児	3人	未定
7/11 (金)	未就学児	3人	2人	3/19 (木)	未就学児	2人	未定
11/6 (木)	就学児	3人	2人				

(4) 児童発達支援事業について

○子どもが集団生活ができるようになると、仕事復帰をされる保護者がほとんどであるため、ここ数年の動向としては、発達支援の通所グループ（親子グループ、単独通所グループ）のニーズは減少傾向である。（令和8年度から親子グループの対象を母集団があっても参加可能とした）また、民間の発達支援事業所の増加により、家庭のニーズに合わせた事業所を選んでいることも影響していると思われる。

その反面、個別指導のニーズが高くなってきている。

令和6年度より母集団のある子が集団の中で不適応を起こしてしまうためのフォローのための小グループ「ラッコグループ」を立ち上げた。小集団で認められたり、褒められたりする経験を通して母集団で自信をつけて落ち着いて活動が出来るようになったという報告を多数受けている。

また、令和8年度よりグループを終了した子ども向けに月に1回半年の期間でフォローを行うことにした。

個別指導の待機期間を短縮させるため、近隣の区民ひろば2か所（、区民ひろば千早）のお部屋をお借りし、言語指導を今年度も継続した。令和8年度は相談の子のみ継続する予定。

指導期間の待機は減少傾向となり、令和6年度よりおよそ2か月に1回の指導になっている。

○栄養士の配置により、子どもの摂食や咀嚼に関することなどの相談・指導に対応。また、通所グループで、調理体験を開催し色々な食材に触れるきっかけになっている。また、調理体験を通して活動の幅を広げ、友達と協力する経験にもなっている。西部子ども家庭支援センターの事業として、広場で離乳食講習会を開催。

○通所グループでは、毎月の保護者会により親同士の交流が増えた。その一方で通所グループに所属していない個別指導のみ継続している保護者から交流の場の希望が出ている。

令和8年度は定期的に保護者同士の交流できる場を設定し孤立を防ぐ取り組みを実施する予定。

令和7年度 発達相談・児童発達支援事業 年間統計

① 相談総数

相談者数（人）

区 分	発達相談		小計	専門相談		小計	合計
	契約（無）	契約（有）		契約（無）	契約（有）		
7年度	1,619	420	2,039	1,803	1,609	3,412	5,451
前年同期	1,258	464	1,722	1,754	1,685	3,439	5,161

② 相談内訳ほか

(1) 発達相談内訳（内容別）（件） ～子ども家庭支援ワーカーによる相談～

区 分	療育方針	発達把握	医療	訓練	教育	家庭生活	見学	その他	合計
7年度	835	981	1	0	44	22	152	4	2,039
前年同期	668	930	0	0	46	3	75	0	1,722

(2) 専門相談内訳 契約（無）

区 分	小児科	小児精神科	言語	理学	作業	心理	合計
7年度	5	79	455	77	469	718	1,803
前年同期	2	94	526	62	502	568	1,754

(3) 新規相談ケース来所経路

区分	保健所	医療機 関	福祉機 関	保育園 等	教育	区民ひ ろば	東部センター	西部センター
7年度	53	3	1	26	1	21	24	15
前年同期	65	4	3	24	1	15	12	6

区分	利用者	パンフ レット	ホーム ページ	支援課	生活福 祉課	幼稚園	不明	その他	合計
7年度	1	2	31	1	0	10	24	32	245
前年同期	3	0	12	1	0	9	62	45	262

4) 医療機関との連携数

機関名	都立大塚病 院児童 精神科	都立大塚 病院小児科	心身障害児 総合医療療 育センター	平和眼科	あぜりあ 歯科	その他
7年度	0	0	0	0	0	0
前年同期	0	0	0	2	3	2

③ 児童発達支援事業

(1) 障害児通所給付費契約状況（7年12月当月分）

区分	単独通所	親子通所	個別指導	支援グループ	契約数
7年度	3	1	200	12	216
前年同期	5	3	202	8	218

(注)

・各項目の「前年同期」は、前年同期の累計である。

・「契約」とは、障害児通所給付費の契約を指す。

・支援グループ：きりん・コアラグループ・ラッコグループを指す。

(2) 障害別内訳（7年12月当月分）

区分	運動障害	発達遅滞	重複障害	言語障害	その他	合計
単独通所	0	3		0	0	3
親子通所	0	1		0	0	1
個別指導	0	202		0	0	202
支援グループ	0	12		0	0	12
合計	0	218		0	0	218

(3) 専門相談実施状況 契約（有）

区分		小児科	小児精神科	言語	理学	作業	心理	合計
7年度	単独通所	7	0	14	5	11	11	48
	親子通所	1	0	4	2	3	2	12
	個別指導	0	1	663	75	556	176	1,471
	支援グループ	0	0	23	2	36	17	78
	合計	8	1	704	84	606	206	1,609
前年同期	単独通所	13	0	24	25	22	15	99
	親子通所	14	0	10	10	8	21	63
	個別指導	0	0	656	75	586	142	1,459
	支援グループ	0	0	20	0	33	11	64
	合計	27	0	710	110	649	189	1,685

(4) 単独通所グループ（ぞう）

区分	開所日数	出席児数	欠席児数	出席率
7年度	141	348	76	82.0%
前年同期	146	461	158	74.0%

(5) 親子通所グループ（うさぎ、ひよこ）

区分	開所日数	出席児数	欠席児数	出席率
7年度	59	49	5	91.0%
前年同期	151	368	175	68.0%

④ 支援グループ

(1) 集団適応準備グループ（きりん） ※6年、7年度実施無し

区分	開所日数	出席児数	欠席児数	出席率
7年度	0	0	0	0.0%
前年同期	0	0	0	0.0%

(2) 幼稚園・保育園児フォローグループ（コアラ：年長児）

区分	開所日数	出席児数	欠席児数	出席率
7年度	25	79	17	82.0%
前年同期	22	75	13	85.0%

(3) 幼稚園・保育園児フォローグループ（ラッコ：年少・年中児）

区分	開所日数	出席児数	欠席児数	出席率
7年度	44	82	19	81.0%
前年同期	5	10	4	71.0%

⑤ その他

(1) 親子遊び広場 発達相談事業（パオパオ）※区民ひろばでの出張相談含む

区分	開所日数	参加組数	参加人数
7年度	23	88	170
前年同期	29	130	245

(2) 発達支援事業 相談グループ（たまごグループ） 令和6年度よりひろばとコラボ開始

区分	開所日数	のべ参加組数	のべ参加人数	実人数
7年度	13	41	82	22
前年同期	9	29	61	17



4. 子ども虐待防止ネットワーク事業（相談支援・連携調整グループ）

～豊島区要保護児童対策地域協議会 事業報告～

① 協議会・会議

1 月末現在

会議体	日 程	主な活動内容	備 考
(1)代表者会議	令和 7 年 5 月 19 日（月） 15：30～17：00	<ul style="list-style-type: none"> 令和 6 年度 事業報告 令和 7 年度 事業計画 等 意見交換 出席 55 名	豊島区役所 1 階 センタースクエア
	令和 8 年 1 月 15 日（木） 14：30～17：00	<ul style="list-style-type: none"> 令和 7 年度 事業中間報告 令和 8 年度 事業計画 等 意見交換 出席 40 名	豊島区役所 1 階 センタースクエア
(2)実務者会議	令和 7 年 第 1 回 7 月 31 日（木） 15:30～17:00	<ul style="list-style-type: none"> 第 1 回セーフコミュニティ対策委員会（としま安全・安心推進協議会） 防災危機管理課より 令和 6 年度 事業報告 令和 7 年度 事業計画について 意見交換 出席 43 名	庁舎 509・510 会議室
	第 2 回 9 月 25 日（木） 15:30～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ヤングケアラー支援事業 中間報告 事例紹介・検討「訪問看護の現場より」グループワーク 出席 36 名	
	第 3 回 12 月 4 日（木） 15:30～17:00	<ul style="list-style-type: none"> 第 2 回セーフコミュニティ委員会（としま安全・安心推進協議会） 「児童虐待の防止対策委員会」R7 年度 取り組み状況報告 意見交換 出席 34 名	
	令和 8 年 第 4 回 2 月 19 日（木） 15:30～17:00	<ul style="list-style-type: none"> 令和 7 年度 事業中間報告 令和 8 年度事業計画 「豊島区児童発達支援センターについて」 出席 32 名	
実務者会議 （ネットワーク会議）	① 虐待進行管理 月 1 回	虐待ケースの現状と支援方針の確認	豊島区児童相談所・ 相談支援 G
	② ネットワーク会議 月 1 回 毎月第 2 水曜 15 時～17 時	<ul style="list-style-type: none"> 前月の新規受理ケースについて報告 ケースの情報共有、支援方針の検討等 	巢鴨・池袋・目白警察署少年係長 豊島区民社会福祉協議会 CSW 生活福祉課 西部生活福祉課 保健所 教育委員会 豊島区児童相談所 子ども若者課 子育て支援課 子ども家庭支援センター 保育課

実務者会議 (三機関連携会議)	③ 三機関連携会議 月1回の定例会議にて進行管理を行う 毎月第2水曜 13時半～14時45分	(1) 特定妊婦及び支援を要する3歳未満の児童のいる家庭の支援に関する情報共有・進行管理。 (2) 一時保護・施設入所中などの児童のいる家庭について三機関で共有する。 (3) その他、三機関の所長が必要と判断したこと。 *令和6年10月より、こども家庭センターにおける合同会議を並行開始	豊島区児童相談所 保健所 子ども家庭支援センター
(3)個別ケース 検討会議		・ケースに関わる関係機関職員等と共に、情報を共有し、支援方針や役割を確認。	

② 協議会の強化

(1) 相談ワーカーの対応力強化

各種研修、勉強会参加、OJT 開催

- ・児童福祉任用前研修
- ・ヤングケアラーコーディネーター研修
- ・児相短期研修
- ・関係機関、施設見学

(2) 関係機関との連携

① 虐待防止ネットワーク研修 2回実施

日 時	テーマ及び講師案
年2回開催	第1回 令和7年6月24日(火) 15時半～17時 センタースクエア 「外国籍をもつ家庭の状況と支援～私たちが知っておきたいこと～」 講師：坪野谷 知美氏(認定NPO法人Mother's Tree Japan) 参加者 81名
	第2回 令和8年1月15日(木) 15時半～17時 センタースクエア 「親を頼れない子どもたち ～ブリッジフォースマイルの活動をとおして～」 講師：菅原 亜弥氏、岸田 浩二氏 (認定NPO法人ブリッジフォースマイル) 参加者 68名

② 関係機関へ出張講座

子ども家庭支援センターの相談支援・連携調整グループの職員が各機関に訪問し、児童虐待やヤングケアラー支援についての勉強会を実施。

- ファミリーサポート援助会員(3回)
- 子ども研修(2回)
- 区内幼稚園、保育園
- 小学校 教員・生徒(朝礼にて)
- 区民ひろば
- 区内専門学校、大学
- 民間団体 など

合計 36回(1月末現在)
内、ヤングケアラー支援内容を含むもの10回

(3) 構成機関の拡充

要保護児童対策地域協議会の新規加入推進を継続して行い、現在 93 の部署・団体で地域の子どもたちを見守っていただいています。

③ 多様な虐待防止活動の予定

地域・関係機関の皆様と連携した活動を今後も継続予定です。

<p>(1) オレンジリボン運動 運動の趣旨を広報しつつ、様々な世代・立場の区民とリボンを作成。各種イベントで配布し、虐待防止を訴える</p> 	<ul style="list-style-type: none">○更生保護女性会によるオレンジリボン制作 毎月第四火曜日実施○大学・専門学校との協働（授業など）○オレンジリボン全庁職員の着用○DV 防止との連携でダブルリボン作成を継続○7月6日（日） 「社会を明るくする運動 区民の集い」参加
<p>(2) 「児童虐待防止街頭キャンペーン」</p>  	<ul style="list-style-type: none">○毎年 11 月オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン実施。○11月8日 （イケサンパーク（ファーマーズマーケット）） キャンペーングッズを配布し、児童虐待防止の呼びかけを行った。 1000個配布 参加者 52名○11月29日 （トークイベント&たすきリレー&講演会） トークイベントに始まり、区児相から区役所まで学生、関係機関職員でたすきリレー実施。午後は区民講演会を実施し、1日を通し児童虐待防止の啓発を実施した。スタッフを入れると約300名にご参加いただいた。啓発グッズ約200個配布。 参加者 トークイベント 56名 たすきリレー 182名 （内 ランナー61名）
<p>(3) 養育家庭体験発表会</p>	<ul style="list-style-type: none">○児童相談所が主催○9月23日（火）実施 センタースクエア
<p>(4) SNS の活用</p>	<ul style="list-style-type: none">○東西子ども家庭支援センターは動画配信や Instagram、X を活用。連携調整 G は虐待防止動画アニメ配信配信を継続。

(5) ヤングケアラー支援



○引き続き、子ども家庭支援センターが常設相談窓口となり、2名のヤングケアラー支援コーディネーターを中心に、ヤングケアラー支援について他部署とともに取り組む。個別の家庭の相談支援の他、研修・普及啓発活動・各関係機関との連携会議など実施予定

○10月18日(土) 13時半～15時半

ヤングケアラー支援区民講演会

講師：滝島 真優氏

参加者 64名

○8月 中央図書館にてブース設置

○令和8年2月5日(木) あうるすぽっと

ヤングケアラー関係機関連絡会議

○ヤングケアラー実態調査

対象：区立小学校(4～6年生)・中学校の在籍児童

約12,168人

回答数：1,705件(回答率14%)

○大正大学学生のポスター展示

・ヤングケアラーについて

・オレンジリボンについて

(6) 豊島区児童虐待防止区民講演会



○区民向けに児童虐待防止、ヤングケアラー啓発につながる演劇を東京弁護士会と共催にて実施

○令和7年8月9日(土)、10日(日)

もがれた翼パート29「スクウェアーツ」

3公演とゲネプロで 828人観劇

○令和7年11月29日(土)

「ネット・スマホ使用が

子どもたちの心と体にもたらす影響」

講師：三原 聡子氏

参加者 144名

(7) 子どもの相談カードの配布



○「子どもの相談カード」

ヤングケアラーに関する内容を追記し、7月夏休み前に学校、関係機関に15,000部配布。

公立小学校1年生～中学校3年生

(約12,000部配)

④ 取り組みの詳細

(1) ヤングケアラー支援について

令和7年度の支援

○ヤングケアラーコーディネーターの支援家庭数

1月末で25世帯への支援を実施。(今年度新規10世帯)

支援内容：子どもとの面談・保護者との面談・家庭全体のアセスメントに基づいた、サービス支援の調整・他機関との連携など
ヤングケアラーの解決のために寄り添い型支援を実施
育児支援ヘルパー・ショートステイ・トワイライトステイの活用
外国語の通訳支援の活用や地域の社会資源へのつなぎなど

保護者へのケア・・・13 きょうだい児へのケア・・・11 祖父母のケア・・・1

○ヤングケアラー普及啓発活動

- ①ジャンプ訪問（長崎・東池袋ともに2回ずつ訪問）
- ②出張講座でヤングケアラー研修 5回
- ③実務者会議で研修実施 1回
- ④都内近郊のヤングケアラー支援を実施している自治体との連絡会実施
- ⑤区民講演会を10月18日（土）に実施 64人参加
- ⑥区内の公立小・中学校全校に訪問し相談窓口の周知を行った

○ヤングケアラー関係機関連絡会議の実施

区関係者のみではなく、地域で活動している団体も含め、ヤングケアラー関係機関支援連絡会議を2月5日実施。

○ヤングケアラーに関する生活実態調査の実施

10月～11月に区内公立の小学4年生～中学3年生の児童人に実態調査を配布のタブレットを通じて実施。対象7,595人 回答1,705人

任意の記名式で実施し、記名ありは16名。内1名はヤングケアラーかもという内容で、ヤングケアラー支援コーディネーターが対応。

(2) 三機関連携会議・合同会議について

○三機関連携会議と子ども家庭センターの合同会議について

三機関連携会議では3歳未満の児童及び特定妊婦について、児童相談所・保健所・子ども家庭支援センターで検討をしている。今年度10月より、こども家庭センターの合同会議と並行開催することにより、要対協のケースとして上がる前の予防的支援が強化された。

令和7年4月～令和8年1月までの取り扱い件数 327件

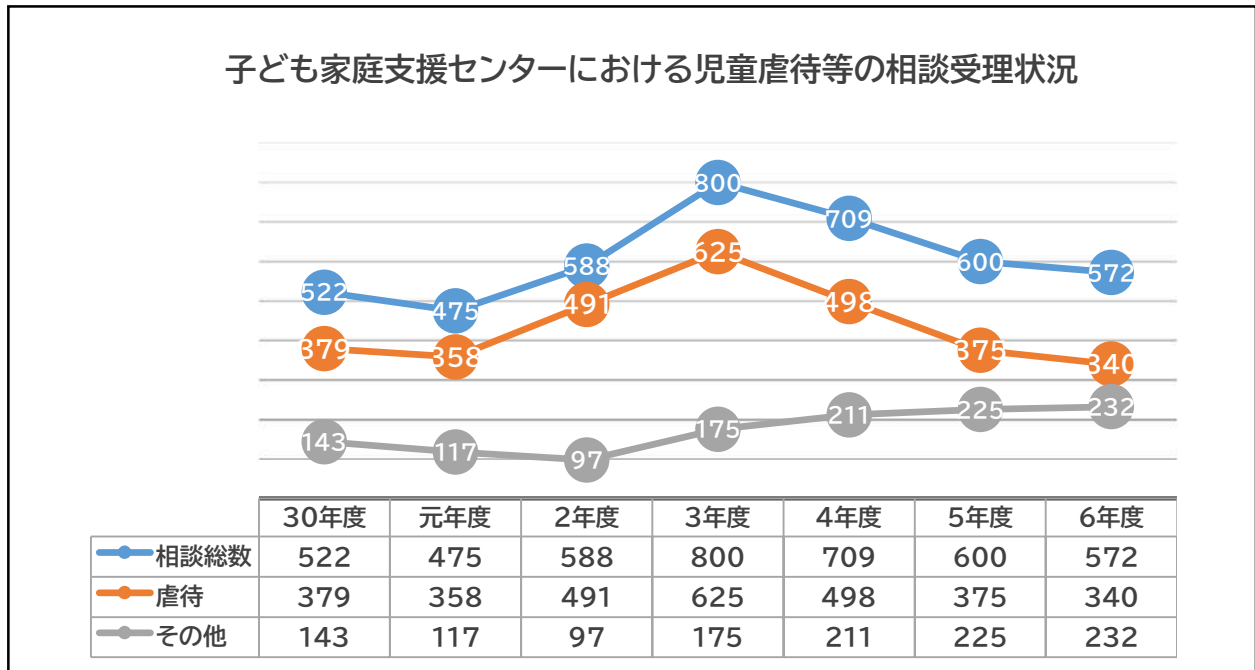
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
27	28	37	42	33	28	27	39	38	28	327
総数内訳 327件	情報提供	身体的虐待	心理的虐待	ネグレクト	性的虐待	養育困難	特定妊婦			
	21	44	137	21	4	60	40			

豊島区 要保護児童等の状況について

(R8年1月末時点)

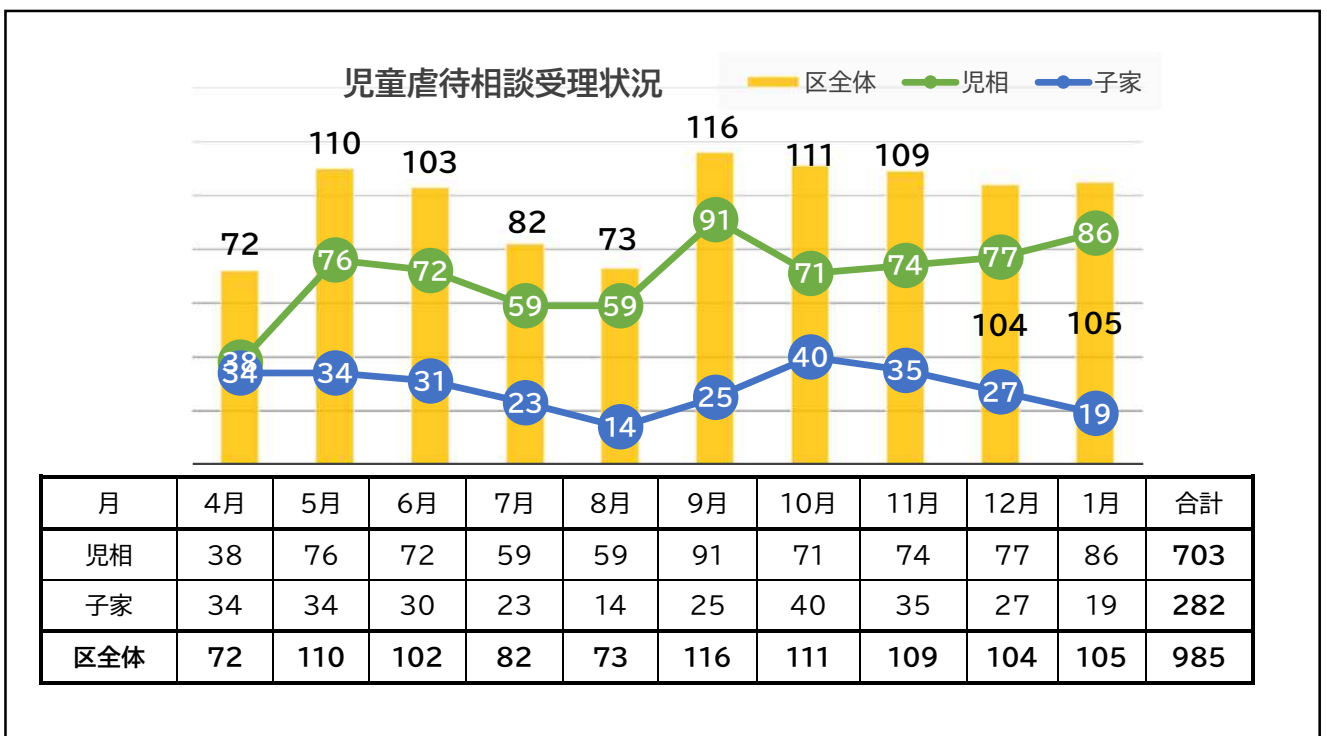
1, 児童虐待等の相談に関する状況

(1) 豊島区児童相談所開設(R4年度)前後の状況

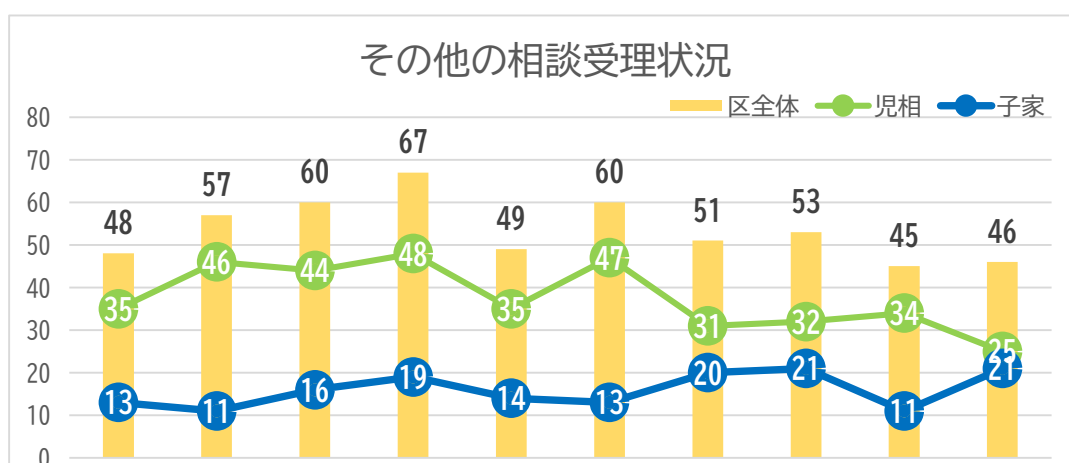


(2) R7年度豊島区の状況(速報値)

① 児童虐待相談受理状況

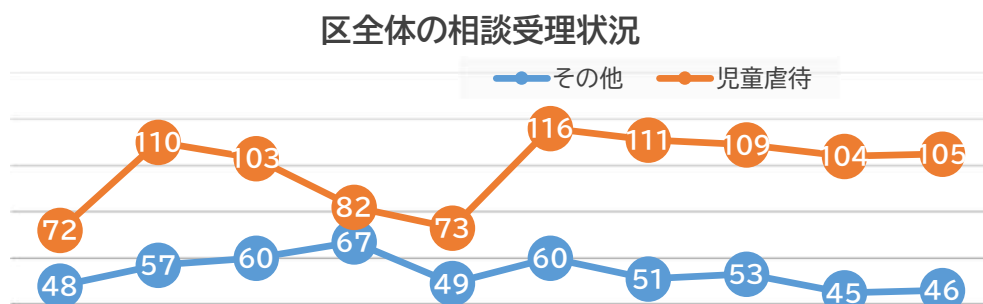


②その他の相談受理状況



月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
児相	35	46	44	48	35	47	31	32	34	25	377
子家	13	11	16	19	14	13	20	21	11	21	159
区全体	48	57	60	67	49	60	51	53	45	46	536

③相談総数



月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
児童虐待	72	110	103	82	73	116	111	109	104	105	985
その他	48	57	60	67	49	60	51	53	45	46	536

区全体で虐待・虐待以外の相談は1,521件(速報値)
6年度同時期、1,332件

(3) 令和7年度 子ども家庭支援センターの相談受理状況

①虐待通告の種別

区分	ネグレクト	身体的	心理的	性的	合計
人数	37	113	131	1	282
割合	13%	40%	46.6%	0.4%	100%

②主な虐待者

区分	実母	実父	継母等	継父等	祖父母	その他	合計
人数	154	110	0	0	1	17	282
割合	54.6%	39%	0%	0%	0.4%	6%	100%

③虐待通告児童の年齢

区分	0～2歳	3～6歳	小学生	中学生	高校生	不明	合計
人数	74	74	95	15	6	18	282
割合	26.2%	26.2%	33.7%	5.3%	2.1%	6.4%	100%

④その他の相談の種別

区分	養育困難	特定妊婦	非行	発達	不登校	家庭 内暴力	性格行動	いじめ	その他	合計
人数	116	34	0	0	1	0	6	0	2	159
割合	73%	21.4%	0%	0%	0.6%	0	3.8%	0%	1.3%	100%

⑤ その他の相談児童の年齢

区分	胎児	0～2歳	3～6歳	小学生	中学生	高校生	不明	合計
人数	34	48	17	34	19	7	0	159
割合	21.4%	30.2%	10.7%	21.4%	11.9%	4.4%	0%	100%

(4) 虐待等相談の発生率

*各年度の18歳未満の人口に対する新規相談発生率

年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
発生率	1.94%	2.64%	2.30%	4.26%	5.36%	3.44%

5. ショートステイ事業

1 事業の概要

〈R7 予算〉 35,268 千円(R6 32,762 千円、2,506 千円増)

〈R7 拡充内容〉 トワイライトステイ245回分増

〈R8 へ向けて〉 ① 利用件数は減少、利用泊数は増加(一般・要支援ともに)

② トワイライト利用状況は横ばい

③ 協力家庭の確保が課題

養育内容	宿泊型:24 時間	
利用要件	保護者の方が以下のいずれかに該当し、お子さんを養育する方がいない場合 ① 疾病・出産・けがで、入院や加療、療育を必要とする場合 ② 親族等の疾病により、看護・介護に従事する場合 ③ 事故または災害にあった場合 ④ 育児疲れ・看病疲れ・育児不安などで休息を要する場合 ⑤ 冠婚葬祭・出張・学校等の公的行事に参加する場合	
対象児童	区内に住所がある、生後 43 日～18 才に達した日以後最初の 3 月 31 日までのお子さん	
利用日数	4 月からの 1 年間に 12 泊まで ※1 回の利用につき 6 泊が限度です。 ※やむを得ない事情があると認められ、施設・協力家庭において受け入れが可能な場合、必要最小限において期間を延長することができる場合があります。	
利用申請	利用日の 2 か月前から、土曜日・日曜日・祝日を除く 3 日前まで ※やむを得ない事情により急を要する場合はご相談ください。	
費用	乳児院	1 日につき 2,500 円 (1 泊 2 日の場合 5,000 円)
	その他	1 日につき 3,000 円 (1 泊 2 日の場合 6,000 円)
	【減額免除制度】 ・非課税世帯:半額免除 ・生活保護受給世帯:全額免除 ・利用要件①のうち、保護者が入院することで不在となる場合:全額免除 【取り消し料】 ・利用前日 17 時以降の取り消しについては 1 日分の費用がかかります。	
定員	9 名(一般:4 名、要支援 5 名)	

2 受け入れ先について

- ① 聖オディリアホーム乳児院
中野区上鷲宮 5-28-28 ☎03-5971-8071
- ② 児童養護施設 子供の家
清瀬市松山 3-12-17 ☎042-491-4876
- ③ 児童養護施設 星美ホーム
北区赤羽台 4-2-14 ☎03-3906-2711
- ④ 母子生活支援施設 愛の家 住所・電話:非公開
- ⑤ 協力家庭(要支援)(豊島区池袋)
- ⑥ 協力家庭(一般)(豊島区駒込)

委託事業者一覧表

事業者	利用枠数	対象児童	事前面接	送迎
① 聖オディリアホーム 乳児院	一般 1 要支援 1	生後43日 ～2歳未満	必須。面接の上、利用の可否を決定	不可
② 児童養護施設 子供の家	一般 1 要支援 1	2歳 ～高校3年生	原則なし。ただし可能な ら事前面接	不可
③ 児童養護施設 星美ホーム	一般 1 要支援 1	2歳 ～高校3年生	事前の施設見学必須	可
④ 母子生活支援施設 愛の家	要支援 1 トワイライト 2	中学1年生 ～高校3年生 の女子	原則なし。	応相談
⑤ 協力家庭(1)	要支援 1 トワイライト 2	小1 ～高校3年生	原則なし。ただし可能な ら事前面接	応相談
⑥ 協力家庭(2)	一般 1	2歳 ～高校3年生	必須。面接の上、利用の 可否を決定	応相談

●ショートステイ事業統計データ（令和8年1月末時点）

【施設ごとの利用実績 R3年度】

R3	一般家庭ショートステイ				要支援家庭ショートステイ				トワイライトステイ(要支援家庭)		計
	石神井学園	子供の家	聖オディリア乳児院	協力家庭	聖オディリア乳児院	子供の家	協力家庭	協力家庭	愛の家		
利用人数(延べ人数)	15人	3人	13人	3人	0人	99人	12人	42人	2人	189人	
利用泊数	29泊44日	7泊10日	44泊57日	13泊23日	0泊0日	328泊427日	12泊22日	42回	124回	433泊583日 166回	
計	利用人数:34人【実人数:23人】 利用延べ日数:93泊134日				利用人数:111人【実人数:23人】 利用延べ日数:340泊449日				利用人数:44人【実人数:3人】 利用延べ回数:166回		実人数 49人

【施設ごとの利用実績 R4年度】

R4	一般家庭ショートステイ				要支援家庭ショートステイ				トワイライトステイ(要支援家庭)		計
	石神井学園	子供の家	聖オディリア乳児院	協力家庭	聖オディリア乳児院	子供の家	協力家庭	協力家庭	愛の家		
利用人数(延べ人数)	20人	5人	25人	12人	6人	153人	17人	64人	62人	364人	
利用泊数	33泊53日	8泊13日	55泊79日	12泊24日	22泊28日	336泊489日	22泊39日	64回	62回	488泊725日 126回	
計	利用人数:62人【実人数:28人】 利用延べ日数:108泊169日				利用人数:176人【実人数:47人】 利用延べ日数:380泊556日				利用人数:126人【実人数:6人】 利用延べ回数:126回		実人数 81人

【施設ごとの利用実績 R5年度】

R5	一般家庭ショートステイ				要支援家庭ショートステイ				トワイライトステイ(要支援家庭)		計
	星美ホーム	子供の家	聖オディリア乳児院	協力家庭	聖オディリア乳児院	子供の家	協力家庭	協力家庭	愛の家		
利用人数(延べ人数)	31人	31人	35人	18人	2人	145人	44人	192人	0人	498人	
利用泊数	70泊101日	74泊105日	59泊94日	25泊43日	3泊5日	286泊431日	70泊114日	192回	0回	587泊893日 192回	
計	利用人数:115人【実人数:51人】 利用延べ日数:228泊343日				利用人数:191人【実人数:49人】 利用延べ日数:359泊550日				利用人数:192人【実人数:8人】 利用延べ回数:192回		実人数 108人

【施設ごとの利用実績 R6年度】

R6	一般家庭ショートステイ				要支援家庭ショートステイ				トワイライトステイ(要支援家庭)		計
	星美ホーム	子供の家	聖オディリア乳児院	協力家庭	星美ホーム	聖オディリア乳児院	子供の家	協力家庭	協力家庭	愛の家	
利用人数(延べ人数)	35人	7人	35人	0人	17人	4人	141人	26人	260人	212人	737人
利用泊数	75泊110日	19泊26日	53泊88日	0泊0日	50泊67日	4泊8日	280泊421日	36泊62日	260回	212回	517泊782日 472回
計	利用人数:77人【実人数:44人】 利用延べ日数:147泊224日				利用人数:188人【実人数:55人】 利用延べ日数:370泊558日				利用人数:472人【実人数:8人】 利用延べ回数:472回		実人数 107人

【施設ごとの利用実績 R7年度】

R7(～1月)	一般家庭ショートステイ				要支援家庭ショートステイ				トワイライトステイ(要支援家庭)		計
	星美ホーム	子供の家	聖オディリア乳児院	協力家庭	星美ホーム	聖オディリア乳児院	子供の家	協力家庭	協力家庭	愛の家	
利用人数(延べ人数)	15人	7人	37人	0人	24人	12人	82人	17人	314人	80人	588人
利用泊数	59泊74日	21泊28日	62泊99日	0泊0日	119泊143日	21泊33日	181泊263日	35泊52日	314回	80回	498泊692日 394回
計	利用人数:59人【実人数:26人】 利用延べ日数:142泊201日				利用人数:135人【実人数:42人】 利用延べ日数:356泊491日				利用人数:394人【実人数:10人】 利用延べ回数:394回		実人数 78人

【子どもショートステイ事業の年度別実績】

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度(～1月)	R7年度予測
利用件数	12	9	88(65)	82(42)	118(80)	145(111)	238(176)	306(191)	265(188)	194(135)	233(162)
対前年度(利用件数)	-	75.0%	977.8%	93.2%	143.9%	122.8%	164.1%	128.5%	86.6%	73.2%	87.9%
利用泊数	20	22	333(277)	349(265)	421(347)	433(340)	488(380)	587(359)	517(370)	498(356)	598(427)
対前年度(利用泊数)	-	110.0%	1513.6%	104.8%	120.6%	102.8%	112.7%	120.3%	88.1%	96.3%	115.7%

※()は要支援家庭ショートステイの実績(内数)

○トワイライトステイ利用件数

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度(～1月)	R7年度予測
利用件数	0	0	90	166	126	192	472	394	473
対前年度比	-	-	-	184.4%	75.9%	152.3%	245.8%	83.5%	100.2%

【概要】

妊娠・出産・子育て期間における切れ目ないサポートの一環として、都補助金を活用し、1歳児を対象に絵本のプレゼントを行う「バースデーサポート事業」を実施してきた。

令和5年度より、国の妊娠出産子育て支援策の重点化に伴い、都においては補助金の拡充が図られることとなり、「バースデーサポート事業」の内容を、絵本のプレゼントから子ども商品券（第1子1万円、第2子2万円、第3子以降3万円）の支給とし、未通園児には区職員が家庭訪問を行い、家庭状況の把握と虐待の未然防止につなげることを目的として実施している。

令和6年度からは、第1子6万円、第2子7万円、第3子以降8万円へ事業内容が拡充し、令和5年度までの自営による事業実施からプロポーザル方式による業者選定へ変更し、厳正な審査により株式会社大和と業務委託契約を結んだ。

令和7年度からは、東京都の要綱改正に準じ、都内転居による支援機会の喪失がないよう、1歳台転入かつ他自治体でバースデーサポートを受けていない家庭も対象としている。

【予算】

135,391千円
 (内訳) 委託料 135,350千円、役務費 41千円

★統計データ 【対象：R6.4月～R7.3月生まれ】

■ アンケート発送前の状況（基礎データ）

【対象者数】

R7	東部C	西部C	管理G	合計
4月	39	26	92	157
5月	37	35	75	147
6月	37	35	70	142
7月	61	44	63	168
8月	43	43	57	143
9月	43	32	52	127
10月	58	57	46	161
11月	61	49	44	154
12月	57	41	44	142
1月	57	51	25	133
2月	48	56	14	118
3月	54	32	11	97
合計	595	501	593	1,689
割合	35.2%	29.7%	35.1%	100.0%

【性別】

	人数	割合
男性	867	51.3%
女性	822	48.7%
合計	1,689	100.0%

【国籍】

	人数	割合
日本	1,519	89.9%
外国籍	170	10.1%
合計	1,689	100.0%

【国籍の内訳】

中国	43	2.5%
ベトナム	34	2.0%
ネパール	32	1.9%
ミャンマー	30	1.8%
韓国	8	0.5%
アメリカ	4	0.2%
台湾	3	0.2%
ウズベキスタン	3	0.2%
フランス	2	0.1%
バングラデシュ	2	0.1%
カナダ	2	0.1%
バスタン	1	0.1%
シンガポール	1	0.1%
オーストリア	1	0.1%
ブラジル	1	0.1%
スイス	1	0.1%
モンゴル	1	0.1%
無国籍	1	0.1%

【多胎児】

	組数	割合
双子	20	1.2%
三つ子	0	0.0%
合計	20	1.2%

【構成】

	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子	第6子	第7子	合計
人数	1,020	533	117	15	1	1	2	1,689
割合	60.4%	31.6%	6.9%	0.9%	0.1%	0.1%	0.1%	100.0%

【内訳】

	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子	第6子	第7子	合計
東部C	337	197	51	9	0	0	1	595
西部C	316	151	32	2	0	0	0	501
管理G	367	185	34	4	1	1	1	593
合計	1,020	533	117	15	1	1	2	1,689

■ アンケート回収後の状況

【接触状況〈アンケート回収〉】

	対象者数	回収数	未回収数	回収率	未回収率
東部C	595	477	118	80.2%	19.8%
西部C	501	389	112	77.6%	22.4%
管理G	593	567	26	95.6%	4.4%
合計	1,689	1,433	256	84.8%	15.2%



【月別未回収状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
東部C	6	1	4	9	1	3	4	4	4	16	21	45	118
西部C	1	0	2	1	4	2	2	6	4	16	42	32	112
管理G	1	0	2	3	4	1	1	0	2	4	6	2	26
合計													256

内訳	人数	割合
日本	206	80.5%
中国	16	6.3%
ネパール	12	4.7%
ベトナム	9	3.5%
ミャンマー	6	2.3%
カナダ	1	0.4%
台湾	1	0.4%
バングラデシュ	1	0.4%
フランス	1	0.4%
韓国	1	0.4%
アメリカ	1	0.4%
無国籍	1	0.4%
合計	256	100.0%

【国籍】	人数	割合
日本人	206	80.5%
外国籍	50	19.5%
合計	256	100.0%



★統計データ 【対象：1歳台転入者】

■ アンケート発送前の状況（基礎データ）

【対象者数】

R7	東部C	西部C	管理G	合計
	3	1	23	27
割合	11.1%	3.7%	85.2%	100.0%

【性別】

	人数	割合
男性	12	44.4%
女性	15	55.6%
合計	27	100.0%

【国籍】

	人数	割合
日本	25	92.6%
中国	2	7.4%
合計	27	100.0%

■ アンケート回収後の状況

【接触状況〈アンケート回収〉】

	対象者数	回収数	未回収数	回収率	未回収率
東部C	3	3	0	100.0%	0.0%
西部C	1	1	0	100.0%	0.0%
管理G	23	23	0	100.0%	0.0%
合計	27	27	0	100.0%	0.0%